

写真集



在ポリビア日本国大使館での協議



在ポリビアJICA事務所での協議



ポリビア環境・水省での協議



ポリビア飲料水・基礎衛生認可局(AAPS)を訪問



ポリビア大蔵省公共投資局(VIPFE)を訪問



在ポリビア ドイツ復興金融公庫(KfW)での協議



スクレ市上下水道公社(ELAPAS)事務所 全景



ELAPAS事務所での協議



ラベロ川ササンタ地区貯水池予定地
ダム建設予定ヶ所を上流側からのぞむ。ダム建設による貯水池完成後は、雨期・乾期に無関係に、通年の安定した水供給が可能となる。



ラベロ川ササンタ地区貯水池予定地
ダム建設予定ヶ所から上流側をのぞむ。コンクリートアーチ式ダムの建設を予定。有効貯水量は、650万m³が計画されている。



取水堰
ササンタ地区貯水池予定地より下流へ約5kmの地点に位置し、現浄水施設(エルロジョ浄水場)への取水堰として使用されている。



導水路中の沈砂池
導水路には、いくつかの沈砂池が設けられている。雨期は濁度が高いため、毎日の維持管理が求められる。しかし十分に流速が落とせず、濁度もあまり落ちていない。



エルロジョ浄水場

取水堰よりオープン水路(延長33km)及び径400mmのダクタイル鋳鉄管(延長8.2km)を通じてエルロジョ浄水場(処理能力250ℓ/s)に原水は導かれる。運営管理に大きな問題はない。



新規浄水場(サンタ・カタリーナ浄水場)建設予定地

スクレ市の北部に位置し、十分な高度が確認された。これにより市内全域への自然流下による配水が可能となる。緩やかな傾斜を利用した浄水施設設計が想定される。



スクレ市全景

世界遺産に指定されているスクレ旧市街では、建物の壁は、白色、屋根はレンガ色に色調が統一されており、2階建てまでしか建設を許可されていない。町並みは、年々、郊外へと拡張している。



スクレ市内の配水池

スクレ市内の標高の低い地区にあるフニン配水池(円形タンク、容量2,000m³、1960年完成)既存施設として、27ヶ所の配水池(全容量 約15,000m³)が市内で使用されている。



市内南西部の配水池から、市内全体をのぞむ。

都市部周辺の標高の高い住宅エリアへは、現在、ポンプアップにより配水タンクまで送水する方式がとられているが、新規浄水場の建設により、それが解消される。「省エネ効果」として大いに期待されている。



スクレ旧市街

スクレ旧市街は、観光資源として重要である。また、スクレ市は、世界遺産であるポトシ市まで車で2時間30分の距離にあり、さらにウユニ塩湖へと続く、観光の玄関口である。